

●事前配布資料に対するご意見等

No.	対象	資料番号・項番・頁数	意見内容	回答
1	報告1	資料1 P.2 項目3「介護予防・生活支援の推進」	(1) 都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」の推進、評価へのコメント「一般高齢者の社会参加は5.3%増加した」とあります。介護予防の効果としてはどうでしょうか？改善等の数字がありましたら、表記した方が良いと思います。	<p>「松戸プロジェクト」の研究成果としては、社会参加をしている人はしていない人に比べて、高次生活機能低下が少なく、数年後に要介護認定を受けるリスクの悪化確率が約24%低いという結果がでています。元気応援くらぶに参加している人はさらにその傾向が強くなっており、社会参加をしていない人に比べて要介護リスクの悪化確率が約76%低いという結果が出ています。</p> <p>※社会参加の定義…スポーツの会、趣味の会、ボランティアの会、学習教養のいずれかに月1回以上の参加</p>
2	報告1	資料1 P.2 項目3「介護予防・生活支援の推進」	(3) 生活支援体制整備、実績&見込みから「地域課題に沿った生活支援体制についての整備」とあります。具体的にはどのような地域課題があったのでしょうか、教えてください。評価へのコメントで「地域住民や地域資源との接点を増やしながらか進めていくことが課題」の「課題」は運営上の課題だと思いますので地域課題を教えてください。こちらも具体的に表記した方が良いと思います。	<p>具体的には、「地域住民のつながりの希薄化」や「シニア男性が地域や趣味活動、コミュニティと接点をもつ機会がない」、「坂道が多い地域の場合、外出機会が減少しフレイル状態に陥る危険性がある」といった地域課題がございました。また生活支援体制整備事業では地域ケア会議から抽出された課題についても活動の対象としています。これらに対し、地域住民が地域と接点をもつ機会を考えたり、地域情報を得られるイベントを開催する、楽しみながら外出機会を維持できるよう買物支援について検討するなど、地域住民とともに生活支援体制の整備に努めて参りました。</p> <p>また、地域の課題を地域で解決していくためには、生活支援コーディネーターが地域の物的資源や人的資源を把握し、人と資源を上手くマッチングをしていく、接点を増やしていくこと、またその意識を醸成する必要があります。こういった活動を円滑に推進できるよう、生活支援コーディネーターがどのようにマッチングを行っていくかが運営上の課題であると考えております。</p>

No.	対象	資料番号・項番・頁数	意見内容	回答
3	報告1	資料1 P.4 項目6「介護人材の確保・育成・定着」	<p>(2) 雇用管理改善の推進です。「いきいき安心プランVIまつど (P.46)」では、経営セミナー、労働基準監督署との連携強化、キャリアパス要件の適正チェック、介護ロボット等の活用推進が謳われていましたが、実績&見込みには表記がありませんでした。評価へのコメントには事業所内保育施設への補助の表記のみでした。</p> <p>そこで①「いきいき安心VIまつど」計画された取り組みは事業所内保育施設への補助のみでは実施しなかったのですか？</p> <p>②介護職員の定着は進みましたか？定着が進んでいるのであれば改善された数字等を示した方が良いと思います。その数字等をもって◎評価するかどうか判断したいところです。</p>	<p>①雇用管理改善についての取り組みとしましては、経営セミナーをH31年2月には今後の介護人材確保について、R2年2月には商工振興課と合同で、労働法規についてをテーマに2回開催いたしました。また、労働基準監督署との連携につきましては、R1年度の事業者向け集団指導において、柏労働基準監督署職員に講演をお願いし、啓発に努めたほか、本市においては介護報酬の処遇改善加算の実績報告についての点検を重点的に実施しております。介護ロボットの活用については、本年度、市内事業所のロボット活用事例の周知を行う予定でございます。</p> <p>②定着についての数値的な評価についてはアンケート調査による離職率の算出等現在まだ精査しているところでございます。</p>
4	報告2	資料2	<p>「松戸市高齢者保健福祉・介護保険事業に関するアンケート調査⑦介護事業所・施設調査」P.10に介護ロボット導入に関するアンケート結果があります。それぞれの介護ロボットについて半数以上が「導入しない」「未定」となっています。</p> <p>また資料2「市民アンケート調査集計結果の概要及び事業者等アンケート調査の単純集計結果」のうち、「松戸市高齢者保健福祉・介護保険事業に関するアンケート調査⑧介護従事者調査」P.6～7のアンケート結果を見ると、(18) ①「あなたが転職したのは主にどのような理由からですか」では「法人や施設事業所の理念や運営のあり方に不満があったため」「職場の人間関係に問題があったため」という法人等マネジメントに問題があった割合が高くなっています。さらに(21)「あなたの日頃の業務を軽減・効率化するためには何が必要ですか」では「介護記録のシステム化」「マッスルスーツの導入(重量物を持ち上げる際、腰の負担を軽減する作業補助ロボット)」の割合が高くなっています。「いきいき安心プランVIまつど」では「経営セミナー、労働基準監督署との連携強化、キャリアパス要件の適正チェック、介護ロボット等の活用推進」が入っていたのに改善が見られていないのであれば残念です。本当に◎で良いのでしょうか。</p>	<p>アンケート結果において、⑦事業所・施設調査と⑧介護従事者調査での、関連した質問での回答のギャップは散見されることは認識しております。</p> <p>ご指摘の、介護ロボットに関しましては、「マッスルスーツの導入」について従事者調査では比較的積極的な回答が多かった点は、これまでの装着型ロボットに対する事業者等の評価の声とは異なっていますので、今後の方向性に対して改めて検討してまいりたいと思います。</p> <p>これまでの調査と同じく「法人や施設事業所の理念や運営のあり方に不満があったため」「職場の人間関係に問題があったため」が上位になっている点は、逆に介護従事者が事業所を選ぶ傾向が強くなっていくとも考えており、今後の改善を継続していく必要があると考えておりますが、取り組みの実施状況の評価として◎とさせていただきます。</p>

No.	対象	資料番号・項番・頁数	意見内容	回答
5	報告2	資料2	<p>アンケート結果の概要に関して</p> <p>①圏域別にみると常盤平団地の数値が他の圏域に比べて問題があるように見えます。この圏域をどう捉えて、どんな対策を考えているのでしょうか。</p> <p>②若年者の回収率が低いです。また、回収された結果によると、地域とのつながりの希薄さ、幸福感の低さが不安要素と感じました。資料3の次期計画においては供給側に入る年代だと思えます。この状況で、この年代の方々が、今後市や地域を支え、自立していけると捉えているのでしょうか。加えて、この年代に対して何か有効な手立てを講じている、あるいは講じる予定があるのでしょうか。</p>	<p>①今回は常盤平圏域を常盤平地区と常盤平団地地区に分けてアンケート調査を実施致しました。居住地区が大半を占める常盤平団地地区では、独居高齢者の増加など団地特有の地域特性が如実に表出しており、今後、個別の施策を進めていく上で参考にして参りたいと考えております。</p> <p>②若年者調査は調査対象が40-64歳の介護保険の認定を受けていない方が対象となるため、日中に活動する方が多く、回答率が低かったと思われます。調査期間満了時に有効回収率が著しく低かったため、お礼状兼督促状を送付しております。</p> <p>また、現役世代や高齢者など様々な世代が一緒に互いを支えあい、「地域共生社会」の実現を目指していく中では、各々がいきいきと活動することができる期間を延伸することが自立する上での大きな要因となると考えております。この社会の実現に向けた計画となるよう、今後の素案作りを進めて参ります。</p>

No.	対象	資料番号・項番・頁数	意見内容	回答
6	報告3	参考資料 新しい施設整備計画等に向けての給付分析について 6.施設整備の方向性のまとめ	<p>施設整備と両輪で介護人材を確保するための施策も急務化と思います。介護事業所・施設調査の中で「介護職員の不足を感じている」との回答が62.9%、退職理由が「市内への転職」が24.6%との回答から、不足している人材を市内で取り合っている状況と言えます。</p> <p>また、介護従事者調査の中で、年齢区分を見ると「40歳以上」が76.3%を占め、60歳以上が26.7%と介護人材の高齢化も深刻な状態で、今後退職していく職員が増えることで更に人材が不足することが予測されます。</p> <p>施設が出来ても介護人材がいなければ運営はできないので、「若い介護人材を増やすための取り組み」を考えていく必要があると思います。</p>	<p>ご指摘のように、介護職員の高齢化の問題は今後の重要な問題であります。今後の総合的な人材確保対策について、現在検討を進めていますので、その観点からも検討を深めてまいります。</p>
7	議題1	資料3 P.7	<p>「3) 2035年から認定者数・認定率が減少」とあります。こちらの根拠は何でしょうか、説明があった方が良くと思います。</p>	<p>別紙、資料3の追加資料にてご説明いたします。</p>
8	議題1	資料3 P.15	<p>図の中で地域ケア会議等で出された地域課題等が反映された箇所はありますでしょうか？教えてください。また（地域包括支援センターの拡充（機能強化型等））とありますがこれはどのような課題があったのでこの方向になるのか説明していただきたいと思います。</p>	<p>地域包括支援センターの拡充については、国の基本指針の中で、取り組むべきものとして示されたものであり、地域ケア会議での地域課題を含め、今後の素案作りの中で具体化していくものと認識しております。</p>
9	議題1	資料3 P.15	<p>P.14の国の施策の6に、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた社会保障の新たな課題がP.15の図「感染症対策の危機管理の実現・新しい生活様式の推進」として入っています。この問題が起きるまでは、人と人とのつながりや、地域での顔を合わせた助け合いは、重要な視点だったと思うのですが、新しい生活様式を取り入れる中で、それらに変わる方法や補填する方法が次期計画の中に入ってくるということでしょうか。</p> <p>以上の対策は、担当課だけでは困難だと考えます。市の関係諸部・課との連携のリーダーシップを取り、進めていただきたいと願います。</p>	<p>現在、高齢化社会が進展する一方、新型コロナウイルス感染症など様々な問題・課題が顕在化してきております。</p> <p>今後、これらの問題・課題に対応していくためには、従来の方法を補完する方法を模索していく必要があり、国では「新しい生活様式」という言葉が使われております。</p> <p>市といたしましては、高齢者の方々が、有する能力に応じ自立した生活が営めるよう配慮していく一環として、従来の方法の安全性を確保しつつ、様々な対応策の一環として新たに「オンライン・サロン」や「要介護認定審査のオンライン化」など実現可能性を模索しており、今後、計画素案の中でより具体化していくものと認識しております。</p>